

第55回「おかねの作文」コンクール

お金を使うということ

東京都・東京都立大泉高等学校附属中学校 1年 関 あゆめ

私たちは日常的に、お金と、生きるため、豊かに生活するために必要な物を交換している。交換しなければ生活することができない。お金は、この社会で生きていくためのツールであると言えると思う。だが、別の見方に、私は最近気がついた。

母と食品を買いに行った時のことだ。勉強の休憩に食べるチョコレートが家にあと一つしかなかったことを思い出し、売り場へ行くと見なれない商品があった。好奇心から箱を手に取った。なかなかおしゃれなパッケージじゃないか。買ってみようかな。そんなことを考えながら徐に値段を見て、おどろいた。高い。とにかく値段が高い。普段買うチョコレートの1.5倍くらいはするかもしれない。私はすぐさま箱を棚に戻した。買う気は失せていた。そんな私に母は、「これ、フェアトレードのチョコレートだけど。本当に買わなくていいの。」と聞いてきたが、こんなに高価な物はいらないと即座に断った。だがフェアトレードがどのようなものなのかは気になって母に聞いた。しかし、自分で調べな、というお決まりのスタンスで返されてしまった。

フェアトレードとは、発展途上国でつくられた物を適正な価格で取引し、貧困 地域の労働環境の向上を目指す、持続可能な取引サイクルのことだという。とい うのも、発展途上国で生産された物は低価格で輸出されることが非常に多く、生 産者に働いた分相応の賃金が支払われていないことが問題化している。十分な収 入が得られないが故、厳しい労働を強いられ、さらに貧困、児童労働によって教 育の機会を失う子供たちが大勢いるのだ。教育を受けられずに育てば、安定した 職に就ける可能性は低くなる。貧困の連鎖は第三者の力なくして止められない。 そこで、フェアトレード基準をクリアした物に対して「国際フェアトレード認証 ラベル」を貼り、最低価格とプレミアム金を保証し、賃金を上げようというのがフェ アトレードだ。認証基準には、自然素材、無農薬などの環境への配慮があること、 児童労働がないことなどが含まれており、この仕組みは生産者の生活を安定させることだけでなく、環境や人権を守る上で大きな役割を果たしている。しかし、その分、価格が高くついてしまう。

これは、欠点として取り上げるべきだろうか。私は、フェアトレードについて知り、あの時、フェアトレードのチョコレートにお金を使わなかった自分が恥ずかしくなった。安価なチョコレートがずらりと並んだあの商品棚に違和感を覚えなかった自分が恥ずかしくなった。毎回嬉嬉とした表情で手に取っていたチョコレート。その裏にあったかもしれない暗い現実を思うと、胸がキリリと締め付けられる。取り上げるべきは、むしろ低価格すぎる商品にひそむ危険性、そして、お金を使うことへ責任を持つことの重要性だと、私は思う。

安いから買う、高価だから買わない。それも豊かに、お金の心配なく生活する ための大切な考え方であることは間違いない。だが、私たちはもう一つ、値段と いう数字にとらわれない視点を持つ必要があると感じる。その商品にお金を使う ことが、いったい何を意味するのかという見方だ。

フェアトレードの商品をはじめとして、今、日本には、環境や人に配慮した商品が数多く出回っている。それは、人間が生み出してしまった負の遺産を取り払うための一歩として非常に素晴らしいことだ。だが、どれだけ良い商品も需要がなければ生産は続けられず、社会に対して本来の力を発揮できない。逆に需要が多ければ、その商品は地球温暖化、貧困、差別、それらがない社会へ前進するための原動力となりうる。そして、需要の源流は私たち消費者、お金を使う側の人間だ。つまり、お金の使い道によって私たちは未来を選択することができるということだ。大げさかもしれないが、私は本当にそう思っている。お金は、社会に対して意思表示をするためのツールでもある。

私は今、13歳。選挙権はまだ持っていない。だが、日々の買い物から、お金の使い道から未来を少しずつ考えていこうと思う。まずはあの日、買わなかったフェアトレードのチョコレート。次の買い物では、買うことにする。誰もが働きがいを得られる社会、教育を受けられる社会、豊かな自然と共存できる社会がいいです、と意思表示をするため。そんな社会に近づくため。出費は増えるが、それは「活きたお金」だと思う。

〈参考文献〉

フェアトレードジャパン公式サイト「フェアトレードとは?」

URL https://www.fairtrade-jp.org/about_fairtrade/

閲覧日 2022年8月2日

